

# APPEAL

発行者  
JR 東海労関西地本  
大阪台車検査車両所分会  
2014年 1月15日  
NO.54

## 米リニア構想へ5,000億円の融資！！ 日米軍事同盟の架け橋か？

14年(平成26年)1月6日 月曜日 享月 日

### 米リニア構想 融資

#### 5000億円規模 日本提案

米政府が米国内で進める超伝導リニア構想をめぐり、日本政府が総工費の半分程度を国際協力銀行（J B I C）を通じて融資する意向を米側に伝えていたこ



とがわかった。総工費は約1兆円にのぼる可能性があるが、日本側は融資額を5千億円規模と見込んでいる。複数の関係者が明らかにした。両政府が協力を検討しているのは、米政府が建設を検討しているワシントン-ボルティモア間（60キロ）。JR東海のリニア技術を念頭に置いている。昨年2月の首脳会談で、安倍晋三首相が「リニア技術の導入を日米協力の象徴として提案したい」と述べ、オバマ米大統領は関心を示した。その後、両政府

間での検討で、総工費が約80億ドル（約8千億円）になるケースを想定した。日本側は為替の変動などを踏まえて約1兆円にのぼる可能性があるかとみて、J B I Cを經由した5千億円規模の融資を米側に提案した。JR東海は米国の販売促進会社「ザ ノースイースト マグレブ（T N E M）」社と共同で、州政府などに採用を働きかけている。T N E Mは、JR東海のリニア技術を米国で独占的に販売促進する権利を持つ。ただ、地元ではリニア路線建設の合意はできておらず、具体的なルートや開業時期のめども立っていない。融資が実現するかどうかは計画の進展次第だ。

**国内リニアの経営困難の打開策？**  
**五千億の対外融資は過去最大！**  
**リニア技術の販売利益で国内リニア運営？**

**私たちは職場の声を訴えていきます！**